

都道府県名	宮 城 県
-------	-------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	利府町立利府中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	0	1 2	2 4
生徒数	1 4 5	1 4 1	1 4 3	0	4 2 9	

研究の概要

1. 研究主題

主体的に学び、スマートに生きる生徒の育成
 - 問題解決能力を高めるための学習形態と学習過程の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

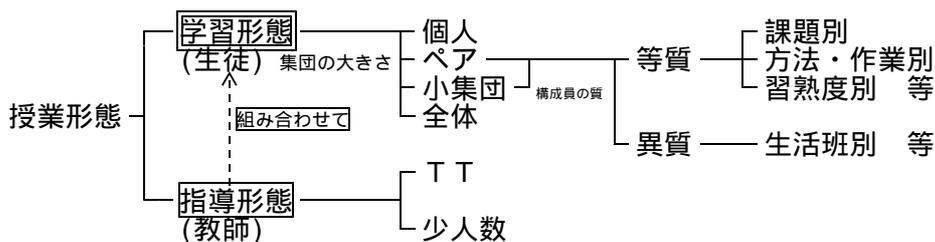
・全学年・全教科
 学習形態と学習過程の工夫を中心とした授業の改善によって、確かな学力の定着を図るため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「主体的に学び、スマートに生きる生徒の育成」 確かな学力の定着を図る指導と評価の工夫を通して</p> <p>仮説 教科指導において、個に応じた学習指導という視点から、以下のことを取り上げていけば、確かな学力が定着し、生徒一人一人が学習に対して主体的に取り組み、学びを次の学習や実生活に生かそうとする“賢さ”を身につけることができるであろう。 (1) 学習の導入や振り返り活動を通して、意欲の向上を図ること (2) 問題解決能力を高めるための学習形態や指導過程の工夫 (3) 評価機能を生かした単元及び単位時間の指導計画の工夫と実践</p> <p>研究の内容・方法 特に仮説(1)について、授業実践を通して以下のことに対して研究してきた。 ・単元や単位時間の導入において、自ら学ぼうとする意欲を喚起するために、課題をどのように生徒と出会わせるか工夫する。 ・単位時間及び単元毎の学習の振り返りを通して、学習の目標に対する到達度を自ら認識し、成就感を味わわせることで、次の学習への意欲・関心を高める。</p>
--------	--

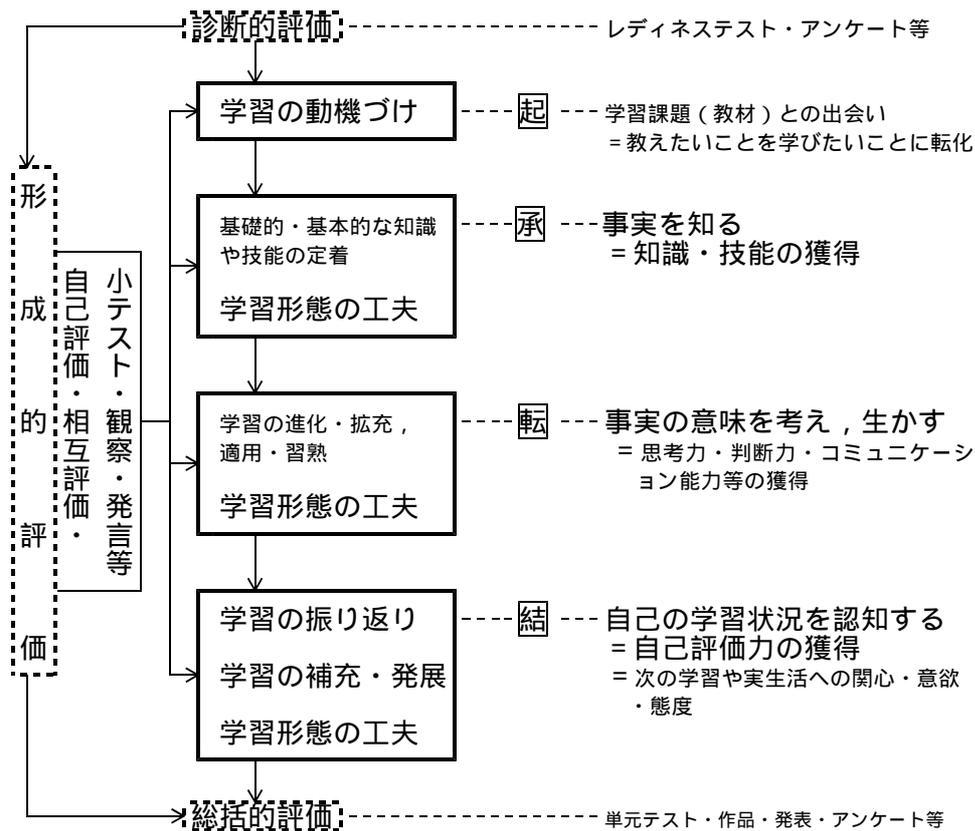
平成15年度	<p>テーマ 「主体的に学び、スマートに生きる生徒の育成」 - 課題解決能力を高めるための学習形態と学習過程の工夫を通して -</p> <p>仮説 教科指導において、個に応じた学習指導という視点から、問題解決能力を高めるための学習形態と学習過程の工夫をすれば、生徒一人一人が学習に対して主体的に取り組み、獲得した知識や能力を次の学習や実生活に生かそうとする確かな力を身につけることができるであろう。 昨年度の研究実践の反省から、研究の重点化・焦点化を図るため、サブ・テーマ及び仮説を変更した。</p> <p>研究の内容・方法 学習形態の工夫</p>
--------	---

・個に応じた学習指導の実践に向けて



学習過程の工夫

・問題解決的な学習の単元の学習モデル



起 : 学習の必要感を持たせる
外発的動機づけ 内発的動機づけ に高める手だて

承 : 解決しなければならない学習課題に対する予想・計画を立てさせ、
そのための情報を収集・取捨選択する 発表・表現等へ
教師は、知識や技能等、教えるべきことを教える。更に情報をいかに
提供するか、見つけさせるか工夫する = 指導・支援

転 : 獲得した知識や技能から別な視点からの知的葛藤を生じさせ、より深
まり・発展性のある思考・コミュニケーション活動を取り入れた学習
活動
例 「だから何なのか」「本当にそうなのか」「自分とどう関わるのか」

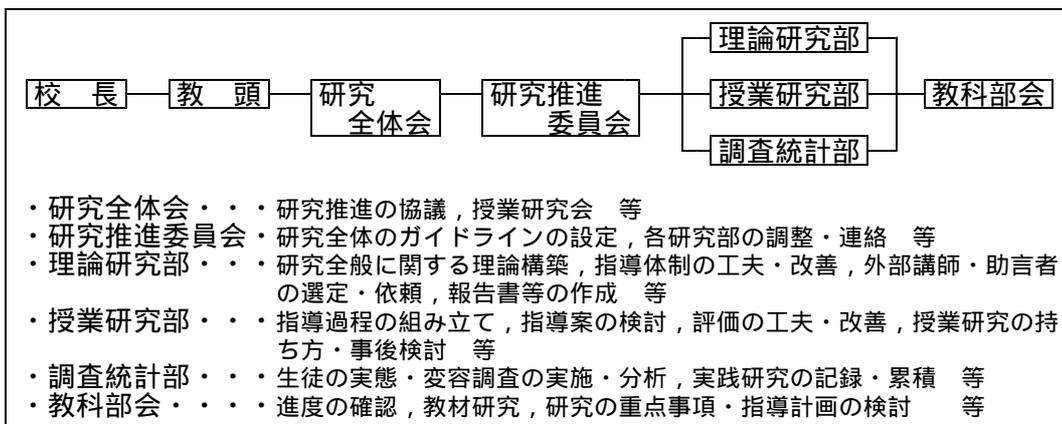
結 : 何がわかり、何がわからないのか 更に追究したいことは何か = メタ認知

平成
16
年度

テーマ 平成15年度に同じ
仮説 平成15年度に同じ
研究の内容・方法

平成15年度の研究内容・方法について、さらなる研究の実践化と授業の改善を通し、研究の成果をまとめる。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

単元の学習モデルを校内で統一し，学習内容のねらいに応じて学習形態を工夫したことで授業の見直し・改善が図られた。このことが生徒の学習への取り組みの変容にも表れている。生徒へのアンケート調査から，予習をしてから授業に臨む生徒が年度当初より14%増え，それが学習意欲の向上とリンクしていることがうかがえる。また，個に応じてきめ細かな指導をする手だてとして，少人数指導やT Tはかなり有効であった。特に3年数学・英語での少人数指導については，意欲的に授業に取り組んでいる生徒や，学習内容が「分かりやすい」と受け止めている生徒がともに80%程度であった。

2 今後の課題

研究の実践によって，学習意欲の向上は認められるものの，学び合い・練り合いによる思考力・判断力等の定着が不十分である。“分かったつもり”から“本当に分かった”となるよう学習過程における深め合いの場の工夫をしていかなければならない。その前提として，基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために，反復練習等の場の工夫・改善が必要である。また，より深まりや発展性のある学習過程が可能になるよう学習形態を工夫し，個のどの観点（個人差）を重視した学習形態なのか，を明確にした授業づくりも，継続して研究していく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- (1) 標準学力検査
 - ア) 時期：平成15年4月23日
 - イ) 内容：1年・・・国・数・社・理
2年・・・国・数・社・理・英 について領域別・観点別の学力検査
 - ウ) 目的：1・2年生の基礎的・基本的な学力を把握するため
- (2) 学習に関する意識調査
 - ア) 時期：平成15年7月18日，12月22日
 - イ) 内容：全校生徒を対象に，授業の受け方，学習のつまずき，学習習慣，家庭学習等に関するアンケート調査
 - ウ) 目的：校内研究の実践によって，生徒の学習に関する意識がどのように変容したかを評価するため
- (3) 少人数の授業に関する調査
 - ア) 時期：平成15年10月21日
 - イ) 内容：3年生を対象に，数学・英語で行っている少人数指導の授業に対するアンケート調査
 - ウ) 目的：少人数の授業を生徒はどう受け止めているのかを把握し，今後の少人数指導のあり方を探るため

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

(1) 授業研究会について
 第1回授業研究会
 ア)日時・・・平成15年11月6日(木)
 イ)場所・・・利府町立利府中学校
 ウ)対象・・・仙台教育事務所管内の小・中学校
 エ)教科・・・国語・理科・美術
 オ)目的・・・研究授業を公開することで、本校の研究成果を普及するとともに、多くの意見を取り入れることで今後の研究を深めていく。

第2回授業研究会
 ア)日時・・・平成16年2月13日(金)(予定)
 イ)場所・・・利府町立利府中学校
 ウ)対象・・・仙台教育事務所管内の小・中学校
 エ)教科・・・英語・家庭・音楽
 オ)目的・・・同上

(2) フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及について
 多賀城地区中学校教育研究会総会にて、研究概要の説明
 ア)日時・・・平成15年5月12日(月)
 イ)場所・・・利府町立利府西中学校
 ウ)対象・・・多賀城地区の中学校教職員
 南方町立南方中学校の校内研修会にて、研究概要の説明
 ア)日時・・・平成15年7月28日(月)
 イ)場所・・・南方町立南方中学校
 ウ)対象・・・南方中学校の教職員

(3) 先進校視察への対応
 巨理町立小・中学校研究主任者会の視察研修会にて、研究概要の説明
 ア)日時・・・平成15年10月8日(水)
 イ)場所・・・利府町立利府中学校
 ウ)対象・・・巨理町立小・中学校の研究主任
 沖縄県国頭村立小・中学校教頭会の視察研修会にて、研究概要の説明
 ア)日時・・・平成15年10月28日(火)
 イ)場所・・・利府町立利府中学校
 ウ)対象・・・沖縄県国頭村立小・中学校教頭
 北海道松前町立大島中学校の視察研修会にて、研究概要の説明
 ア)日時・・・平成15年11月25日(火)
 イ)場所・・・利府町立利府中学校
 ウ)対象・・・北海道松前町立大島中学校教員

(4) 本校のホームページ開設について
 ア)開設時期・・・平成15年度中
 イ)内容・・・研究の概要・指導案・ワークシート・自己評価カード等の紹介

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 ■ 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 ■ 国語 ■ 社会 ■ 数学 ■ 理科
 ■ 外国語 ■ 音楽 ■ 美術 ■ 技術・家庭
 ■ 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 無